

令和5（2023）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

タイワンガザミ 熊本海域

対象水域	熊本海域	参画機関名	水産研究・教育機構 水産技術研究所 沿岸生態システム部、熊本県
------	------	-------	------------------------------------

(1) 調査の概要

- ・機構は、調査指針および状況報告書の取りまとめを実施
- ・熊本県は、生物情報収集調査を実施

(2) データ収集状況

- ・県内2漁協における2016年～2022年の日別水揚げデータ、県内1市場における2019年～2022年度の日別水揚げデータを収集済み。2023年度以降の県内2漁協及び1市場における日別水揚げデータを収集中
- ・全甲幅長測定と雌雄判別を、2020年度に59個体、2021年度に42個体について県内主要1市場において実施し、2022年度に154個体について県内主要2市場において実施済み。2023年度以降の3市場における全甲幅長測定と雌雄判別を実施中

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：浅海の砂・砂泥底に生息し、山形県～山口県・玄界灘・五島灘～薩南海域、東京湾～鹿児島湾・沖縄・八重山列島、台湾・インド太平洋・ハワイ沿岸に分布（三宅 1983）
- (2) 年齢・成長：熊本県海域の情報なし。沖縄県海域では、3～5月に産卵されたものは7～9月に成熟サイズ（生物学的最小形）である全甲幅長 100 mm に達する（諸喜田 1988）。オーストラリア西部では、約1年で全甲幅長 110～125 mm に成長する（Potter *et al.* 1983）
- (3) 成熟・産卵：熊本県海域の情報なし。沖縄県海域では、抱卵雌ガニが1～11月に出現し、産卵盛期は3～9月、成熟サイズは全甲幅長 100 mm とされる（諸喜田 1988）。オーストラリア南部では、10～1月に産卵し、産卵期中に複数回産卵する（Kumar *et al.* 2003）
- (4) 被捕食関係：主要な餌は貝類で、他に魚類やカニ類も捕食（諸喜田 1988）

(4) 備考

- ・農林水産統計年報では、タイワンガザミは「がざみ類」に含まれており、タイワンガザミのみの漁獲統計の収集が困難

(5) 引用文献

Kumar, M. S., Y. Xiao, S. Venema and G. Hooper (2003) Reproductive cycle of the swimming crab, *Portunus pelagicus*, off southern Australia. *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, **83**, 983–994.

三宅貞祥 (1983) 原色日本大型甲殻類図鑑 (II)'. 保育社, 大阪, 84.

Potter, I.C., P.J. Chrystal and N.R. Loneragan (1983) The biology of the blue manna crab *Portunus pelagicus* in an Australian estuary. *Mar. Biol.*, **78**, 75-85.

渡辺利明 (1998) タイワンガザミ. サンゴ礁域の増殖. 諸喜田茂充編著, 緑書房, 東京, 190-197.